

た。

(3) 平素の被服実習成績との関係も、結び目が多くしかも運針の速いものに優秀なものが比較的多く、結び目が少なく運針も遅いものには成績の良くないものが比較的多いという結果が得られた。

以上の結果から、糸結びテストによる結び目の数の多少から、ある程度、被服技能の素質を察知することができるものと考えられる。

21. 被服技能を測定する一方法（糸結びテスト）について（第3報）

奈良女子大附属高校 太田 昌子
藤沢キミエ

千葉県立安房第二高校 井上 絢子

被服技能に関係の深い指先の器用さを測定する目的で糸結びテストを考案し、小・中・高・大学等の各年令層にわたり、これを実施した。結果については既に、第1報で結び目の数についての個人差、年令差、男女差を、第2報では糸結びテストによる確実度について発表した。

今回はこのテストの成績と運針および平素の被服実習成績との関連性を、中学・高校生について調べてみた。

(1) 結び目の数と運針の速さとの間には、かなりの相関関係が認められる。ただし学年が進むと共に相関度が低くなるようである。

(2) 運針の質との関係は、速さほど顕著ではないが、結び目の数が平均よりもある程度以下に落ちるものは、質的にもよい成績をおさめていないという結果が得られ